

大学卒女性の社会活動—その一例として

牧島 悠美子

私は昭和45年に大学を卒業し、企業に1年勤務したのち結婚し、LAで3年を過ごし、帰国後出産・育児、次男が入園後はPTA、子供会育成会などで活動してきた。次男が中学3年時から断続的に10年ほど近所の私立中学・高校の時間講師やつくば市の男女共同参画指導員（非常勤特別職）などを経験した。現在は（社）大学女性協会（JAUW）などを中心に社会活動をしている。JAUWはIFUW（国際大学女性連盟）の一員で、大学卒の女性が社会貢献するためのグループであり、国内外の女性への奨学金の贈呈、科学技術賞の授与、女性の地位の向上などのための調査・研究・啓発、政府関連団体などへの提案、要望書の提出などの活動をしている。

JAUW茨城支部に入会したのは桜蔭会茨城支部の集まりで当時の先輩たちの強い勧めによるものであったが、実際の活動は難しく、しばらくは会費会員であった。

茨城県には女性を海外に研修派遣する制度があり、JAUW茨城支部の推薦で2002年に男女共同参画などの研修のため、同期27名の一員としてフランス・スウェーデン・ベルギーへ11日間派遣された。その縁で、つくば市の男女共同参画懇談会の委員になり、市の「男女共同参画基本計画」などの策定に携わった。その懇談会の委員の一人に誘われ「男女共同参画」を考えるグループに入会、今も活動している。

「ポコ・ア・ポコつくば」というこの会は当時「女子差別撤廃条約」の冊子をアジア女性資料センターの助成金で作成したところであった。集まりがある時はこの冊子を並べ、パネルシートを何枚か掲げ、参加者への啓発活動をしている。

海外研修の報告発表が縁で、JAUW本部の役員（理事）になり、今も2つの委員会で活動している。

そのうちの一つは「国際婦人年連絡会」の窓口にもなっており、ここでも2つの委員会で活動している。「国際婦人年連絡会」は国際婦人年で集結した日本全国の女性団体の連絡会として発足したもので、現在も約40団体が8部門（政策・教育・マスメディア・労働・家族福祉・平和開発・環境・憲法問題・国際）に分かれ、各専門分野で調査・研究などを行い、政府、企業その他の関連機関へ提案、要望書の提出などを行っている。専門家も多い委員会で、学ぶことの多い良い機会を得ている。

この他、JAUWの本部理事の任期が切れたと同時に「ユニフェム東京」の役員となり、今は発展途上国の女性たちの経済援助の活動もしている。また、JAUW茨城支部でも役員をしており、東京とつくば・水戸などを行ったり来たりしている。海外研修の卒業生たちのグループ「茨城県女性のつばさ連絡会」の会長も順番でしたが、なかなか大変なものがあつた。私の属した中では「考え方・表現方法の違い」が最も大きなグループだった様に思う。驚くことが多く、これまでは同じような考え方の人がほとんどのグループばかりに居たのだとやっと気がついた。

場合により、いつも楽しいことばかりとはいかないが、多くの良い先輩、友人に恵まれ、いろいろの意味で学ぶことが多い日々である。今後はこれらの活動の担い手、後輩・次世代育成が急がれる。若い人たちが社会に目を向け、共に活動をしたいと思わせる活動をしていくこと、共に活動をしたいと思ってもらえるような魅力的な先輩になることが課題である。最後は人間性に行きつく。

まきしま・ゆみこ

第18回生

国際婦人年連絡会、茨城県女性団体連盟の各委員

